

創刊 90 年！

たかはしござん

## 「幼稚園紙芝居と高橋五山の世界」展

子どもたちに親しまれ、図書館でも多数所蔵している紙芝居。そんな印刷紙芝居の元となった「幼稚園紙芝居」を高橋五山が創刊したのは昭和 10（1935）年のことでした。

創刊から 90 年となる節目に、五山が西洋の童話を紙芝居で紹介してきた軌跡と、日本固有の児童文化といわれる紙芝居を紹介する展示を行います。

静岡福祉大学附属図書館所蔵のコレクションを、この機会にぜひご覧ください。

●日 時：令和 6 年 11 月 28 日（木）～令和 7 年 1 月 21 日（火）

※休館日（月曜日・年末年始）を除く

午前 9 時 30 分～午後 7 時（土・日曜日は午後 5 時閉館）

●場 所：静岡市立清水興津図書館（静岡市清水区興津本町 829）

●内 容：①幼稚園紙芝居の世界

②折り紙と五山

③関東大震災と「大正大震災号」

④紙芝居年間最優秀作品「高橋五山賞」

◎企画展説明：11 月 28 日（木） 午後 1 時 30 分～4 時

説明者：進藤令子氏（企画担当：静岡福祉大学附属図書館図書課長）

◎令和 7 年 1 月 18 日（土）、講演会「高橋五山と紙芝居」（仮）を開催予定です。

詳細は改めてお知らせします。



『赤頭巾ちゃん』 1935 年



『ふしぎの国アリス物語』 1937 年



『ピーター兔』 1938 年

【共 催】 静岡市立清水興津図書館／静岡福祉大学附属図書館

【協 力】 高橋洋子氏（高橋五山親族、法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）

【問合せ】 静岡市立清水興津図書館（静岡市清水区興津本町 829）TEL：054-360-4311

静岡福祉大学附属図書館（焼津市本中根 549-1） TEL：054-623-7452

## ●高橋五山（たかはし ござん）

高橋五山（本名：高橋昇太郎）は明治21（1888）年、京都市に生まれ、京都市立美術工芸学校を卒業しました。

明治44（1911）年に東京美術学校図案科（現東京芸大）を卒業した後、数々の児童向け雑誌を手掛けながら、若手の画家の育成にも取り組んでいました。

昭和6（1931）年には「全甲社」を立ち上げ、月刊絵本や漫画などを出版しました。

五山が47歳となる昭和10（1935）年、紙芝居を幼児教育の場に普及させようと決心し、『赤頭巾ちゃん』を皮切りに「幼稚園紙芝居シリーズ」の刊行を始めました。

『ふしぎの国アリス物語』、『ピーター兔』等の西洋童話を紙芝居にし、日本中の子どもたちに紹介しました。

これが現在でも日本全国で親しまれている紙芝居の元となるもので、今からちょうど90年前のことになります。

## ●折り紙紙芝居・貼り絵紙芝居

物資が乏しくなった戦時下では、紙芝居を折り紙で表現する手法を考案しました。

昭和18（1943）年と19（1944）年に、雑誌『紙芝居』で「折紙紙芝居の作り方」と「貼絵紙芝居の作り方」を発表しました。

これらは保育現場でも簡単に作れ、折り紙や貼り紙で様々なものを表現し、たとえ物がなくても心が豊かであることの大切さを子どもたちに伝えました。

## ●関東大震災

大正12（1923）年9月1日午前11時58分、関東大震災が発生しました。

その様子を五山は子どもたちにわかりやすく伝えるため、児童雑誌『ボッチャン』増刊「大正大震災号」を発行するという、ジャーナリストとしての一面も兼ね備えていました。

## ●高橋五山賞

戦前・戦後と紙芝居文化の発展に尽くしてきた業績を顕彰して、昭和36（1961）年に「高橋五山賞」が創設されました。

同賞は「紙芝居界の芥川賞」と称され、出版紙芝居の中から優秀な作品に贈られるもので、五山の紙芝居への想いは現在まで受け継がれています。



『大國主命と白兔』 1936年



『はり紙画集』 1949年



『大正大震災号』1923年10月14日